共鳴する、15人の陶芸

セラミック・レゾナンス
Ceramic Resonance

やきもののイメージが変わる？ 5 鑑賞を深める の問い

多様なやきものの表現が共鳴しあう特別展。
展覧会をもっと深く楽しんでいただくための
5つの問いを用意しました。



安藤騎虎《備前彩手 ポット・ミニカップセット》2026年

セラミック・レゾナンス ってどんな展覧会？

備前市をはじめ茨城・栃木・神奈川・岐阜・佐賀・兵庫・香川など、全国各地で活動する作家15名による約120点の陶芸作品を展示します。食卓を彩るうつわから、動物のみなぎる生命力を感じさせる大型オブジェまで、多岐にわたるやきものの表現を感じていただけます。
また、展示室ごとにテーマが異なります。展示室1は「自然と生きる、暮らしに寄り添う」。生活を彩るうつわや自然から着想を得た作品を中心に紹介します。展示室2は「静かなる衝動」として、1つのジャンルに縛られない多様な陶芸作品を紹介します。展示室3は「備前のいま、5人の表現」。伝統と向き合いながら新しい表現を追求する備前作家の作品を紹介します。ぜひ、伝統が息づく備前の地で、豊かな創造性と多様な陶芸表現の「共鳴」をお楽しみください。

学芸員・田邊 桃子

Q1 “やきもの”ってどんなイメージ？

うつわや湯呑み、花びんなど、暮らしの中で使われるものを思い浮かべたなら、それは“やきもの”のひとつの姿にすぎません。本展では、生活や用途を飛び越えた、表現・アートとしての陶芸作品も見られます。



宮本晃林《たゆたえども沈まず》2026年

やきものの表現って自由に拡がっている！



佐藤朱理《白磁ハナカゴ 花散》2025年



栗田洋《白備前水指》2026年

Q2 備前焼のイメージは？

備前焼は赤茶色で素朴なやきもののイメージがありませんか？ 本展に出品する備前の作家は、伝統を大切にしながら新しい表現に挑み続ける7名。備前市三石の土橋鉱山から掘り出された陶石で作る白備前や、備前の土の力強さを生かしたダイナミックなハイヒールなど、それぞれ異なるアプローチで“備前のいま”を表現しています。

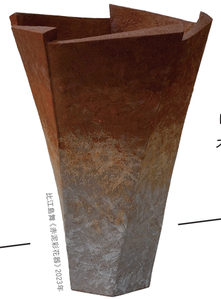


茅野ありさ《抑圧などといらない》2022-2023年



奥松美歩《flower vase》2026年

Q3 どんなところに共鳴を感じますか？



比江島潤《静寂の花器》2023年

本展では、地域、素材、技法など、さまざまな違いや共通点から、作品や作家同士の共鳴が感じられます。ギャラリートークでは、出品作家の対話からレゾナンス（共鳴）が生まれる瞬間も！



中里純《地景窯変花器》2023年

ギャラリートーク“共鳴”のテーマ

10/11（日）同世代の若手女性作家 ※終了
11/21（土）生活を彩るうつわ
12/12（土）白の表現
→詳しくはBMOA SCHEDULEをチェック

Q4 気になった作品の“テーマ”を想像してみましょう

現代社会や生き方への問いを込めた作品もあれば、自然から受け取った感覚をかたちにした作品、ポップカルチャーから着想を得た作品もあります。「この作品は何を表現しているのだろう」「何を伝えようとしているのだろう」と自由な発想で鑑賞してみてください。



宇治地紘奈《Adam》2024年



辻千恵子《変容の始まりの終わり》2026年
（撮影：Shunsuke Yasunishi）

すべて個人蔵

Q5 気になった作品を一点選ぶならどれですか？

鑑賞しながら、あなたが気になった作品を選んでみてください。どこからそう感じたのか考えてみると、より深い鑑賞体験になります。備前市美術館では、作品の感想を語りあう会「おしゃべりびより」を開催しています。次回は下記日程で開催予定。誰かの感想が自分の新たな気づきになります。

おしゃべりびより

12/5（土）13:00〜15:00
定員：10名
参加費：要当日観覧券（1ドリンク付き）



田淵太郎《cone》2025年

特別展「セラミック・レゾナンス」

会期	2026年10月10日（土）〜12月20日（日） 休館日：月曜日（11/23は開館）、11/24（火）
開館時間	9:00〜17:00（入館は16:30まで）
会場	2階展示室1、2、3
観覧料	一般：1,000円 学生（大学生、専門学校生、高校生）：800円 中学生以下：無料 65歳以上（備前市・赤穂市・上郡町在住者）：750円 65歳以上（上記以外の在住者）：900円

ひとコマレポート
HITOKOMA REPORT

日々さまざまな催しが開催されている備前市美術館。
今回は、美術館の大切な役割でもある教育普及と
文化芸術振興の取り組みをレポートします！





備前市美術館には、地域の子どもたちに文化芸術と触れる機会を提供する教育普及の役割もあります。日頃、学校見学の受け入れも積極的に行っており、9月には備前市立日生西小学校の5年生が来てくれました。総合学習の授業で、備前市の魅力を伝えるポスター制作をしているなか、「備前市美術館に行ってみたい」という声が上がったそう。1階の歴史展示室から2階の特別展「ティーカップ・メリーゴーラウンド」、3階のラウンジやお茶席まで見学。学芸員の解説を聞いたり、感想を言い合ったりと美術館をたっぷり楽しんでくれました。「このティーカップがかわいい！」「使ってみたい！」という素直な感想も。見学のお申し込みはお気軽に、美術館まで直接ご連絡ください。

「ティーカップ・メリーゴーラウンド」では、関連イベントのセミナー「和紅茶を楽しむ」やギャラリートークも賑わい、展覧会と一緒に楽しんでいただけました。シャンソン歌手の松本かずこさんを迎えたコンサートも開催。館内は松本さんの歌声とメンバーの演奏で優雅な雰囲気に包まれました。展覧会に合わせた文化芸術イベントの開催もぜひチェックしてくださいね。



BIYORI vol.02
2026.10.29 発行
発行元　公益財団法人備前市文化芸術振興財団
編集　南裕子、橋春花
デザイン　加藤咲

備前市美術館
〒705-0001 岡山県備前市伊部1659-6
TEL｜0869-64-1400
FAX｜0869-64-1401
MAIL｜info@bizen-moa.jp
https://bizen-moa.jp
HP

BIZEN MOA NEWS LETTER
備前市美術館メールマガジン毎月配信中！
登録はコチラ

BIYORI アンケート実施中！
ご協力をお願いします！

BMOA SCHEDULE
展覧会・イベント　2026.11〜2027.1　詳細は備前市美術館のHPをご覧ください

EXHIBITION / EVENT　開催中〜12/20（日）
セラミック・レゾナンス

<関連イベント>

11/7（土）14:00〜15:30 要申込
出品作家によるトークセッション「薪窯焼成について」
会　場　1階講堂　参加費　無料（要当日観覧券）
パネリスト　竹下鹿丸（栃木）、田淵太郎（香川）、森本仁（備前）
聞き手　金子賢治（当館館長）、田邊桃子（当館学芸員）

①11/21（土）②12/12（土） 各日14:00〜 申込不要
出品作家によるギャラリートーク
会　場　①2階展示室1 ②2階展示室2、3　参加費　無料（要当日観覧券）
ゲスト　①安藤騎虎（備前）×佐藤朱理（岐阜）　②中尾純（佐賀）×藤田祥（備前）

11/29（日）①14:00〜 ②15:45〜（各回約1時間）要申込
出品作家によるワークショップ「湯呑みの絵付けに挑戦しよう！」
会　場　1階講堂　参加費　3,000円（要当日観覧券）　講　師　中里浩子（神奈川）

EVENT　お茶席「月釜」
11/3（火・祝） 12/20（日） 2027.1/17（日）
各日10:00〜16:10（全7席）要申込
会　場　3階 茶室「壺々庵」
席　料　1,500円（季節のお菓子付き）　席　主　備前市茶道連盟ほか

EVENT　コンサート

11/15（日）①11:30〜 ②13:30〜 申込不要
第24回おかやま県民文化祭まちかどコンサート
会　場　1階エントランスホール　観覧料　無料
出　演　岡山県演奏家協会、ルネス・アカデミー「アルテ・シェニカ」

11/22（日）①11:00〜 ②14:00〜 申込不要
特別展「セラミック・レゾナンス」記念コンサート
Voice Resonance〜響きあう声と鼓動〜
会　場　1階エントランスホール　観覧料　無料
出　演　アカペラヴォーカルグループ「clearance」

11/28（土）①11:00〜 ②14:00〜 申込不要
金平鉄鋼株式会社 Presents 池田満寿夫Vol.1 記念ピアノコンサート
〜独創のオリジンに寄せて〜
会　場　1階エントランスホール　観覧料　無料　出　演　能登泰輝（ピアニスト）

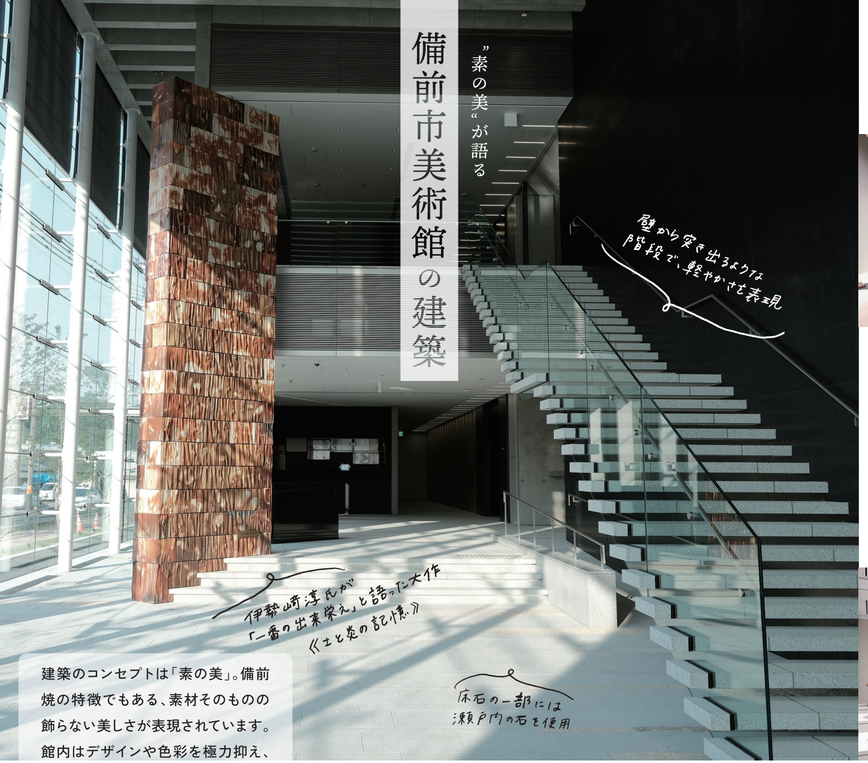
EVENT　おしゃべりびより

12/5（土）13:00〜15:00 要申込
会　場　3階ラウンジ　参加費　要当日観覧券（1ドリンク付き）

EXHIBITION　展示室0　観覧料　無料

10/30（金）〜11/15（日）　Touching The Earth
11/17（火）〜11/29（日）　池田満寿夫Vol.1
12/2（水）〜12/19（土）　KAKUKEI一角形一

表紙作品（右上から時計回りに）：中里浩子《オパールの植物》2018年、森本仁《備前花器》2025年、山田由起子《向こうがわ》2026年、竹中健次《YASASII KAZE》2018年

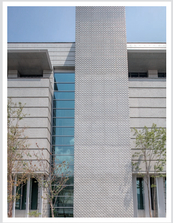


備前市美術館の建築

“素の美”が語る

建築のコンセプトは「素の美」。備前焼の特徴でもある、素材そのものの飾らない美しさが表現されています。館内はデザインや色彩を極力抑え、自然の素材を取り入れることで、作品が映える空間に。特に象徴的なのが、エントランスホールです。まず目に飛び込んでくるのが、伊勢﨑淳氏のモニュメント。約200枚の備前焼の陶板が取り付けられ、来館者を館内へと誘導します。床石の一部には瀬戸内の石を使い、あえて削らず、石の凹凸で瀬戸内海の波を表現。空間に穏やかさと静けさを演出し、鑑賞前の心を落ち着かせてくれます。

美術館スタッフが語る 建築美



コンクリートの外壁では4つの仕上げを使い分け、奥行や迫力を演出しているのがいい！

備前市役所 建設部
都市計画課 植田さん



秋になると夕日がガラスと水盤を黄金色に染める、すごくきれいな景色が見られます。

備前市美術館
管理スタッフ 尾賀さん

※









建築の意匠にはワケがある

建築には「訪れた人にこう過ごしてほしい」という想いが込められています。
設計者の意図を紐解きながら、備前市美術館の使い方や機能をご紹介します。



2階の展示室は全部で3つ。展示室1にはガラスがない展示スペースがあり、特に陶芸作品の質感をダイレクトに鑑賞できます。空間と作品の調和も展覧会の見どころのひとつです。

3階の茶室では、備前焼のうつわで楽しめるお茶席を毎月開催しています。100年続く美術館を見越して、砂壁に鉄粉を混ぜ、錆びで経年変化が楽しめる工夫も施されています。





1階の展示室0は、さまざまな創作の発表の場として使われています。移動可能な展示壁や遮光できる窓など、可変性の高い造りに。最大78席の講堂も完備し、展覧会に関連した企画や講演会、市民の活動の場として活用されています。

3階のラウンジは、休憩やイベントなどで自由に利用できます。南側には国史跡南大窯跡、北側には伊部の町並みを見渡し、南から北へと歴史の移り変わりが感じられます。また、1階のカフェメニューはラウンジでも味わえます。



Preserve 守る

温度・湿度が保たれた適切な環境で、作品を保存・管理し、未来へ継承することも美術館の大切な役割。旧備前焼ミュージアムと比較して、収蔵庫・保管庫の広さは約3倍になりました。

Relax 憩う

備前の店とコラボレーションしたドリンクやおやつが味わえるミュージアムカフェは憩いの場。美術鑑賞の合間はもちろん、日々のティータイムにも。



※すべて　設計監理：株式会社櫻井潔建築設計事務所・ETHNOS／写真：畑 拓

編集部がゆく！

鑑賞後のよりみち案内

特別展に出品する藤田祥さんと安藤騎虎さんのギャラリーや秋の見どころをご紹介。

BIZEN gallery Kai

@gallery_kai_bizen

備前市美術館から徒歩3分



藤田祥さん、森大雅さん、馬場隆志さんのギャラリー。備前市三石の鉱山で採れた鉱物の粉末を用いた藤田さんの白備前などが並ぶ。いびつな造形と凛とした白色に心が動かされる。

鳴瀧窯

@narutaki_bizen

備前市美術館から車で10分



「現代にフィットした備前焼を」と洋食器のテイストを取り入れたシンプルなデザインの食器が魅力の鳴瀧窯。備前焼に捉われない安藤騎虎名義の作品も。

閑谷学校

@former_shizutani_school

備前市美術館から車で15分



寛文10（1670）年、岡山藩主池田光政によって創建された庶民のための学校。国宝をはじめとする備前焼の屋根の建築群と紅葉のコラボレーションが見どころ。11/7〜15にはライトアップを開催。

備前市美術館だより

2026.11

BIYORI

ビヨリ Vol.02







特集2

シンプルだけど美しい！ 建築から美術館をもっと知る

“素の美”が語る 備前市美術館の建築
編集部がゆく！鑑賞後のよりみち案内



特集1

やきもののイメージが変わる？

鑑賞を深める５つの問い

特別展「セラミック・レゾナンス」
ひとコマレポート ／ BMOA SCHEDULE